町小だより

令和８年
３月１９日
Ｎｏ．７０６
御免町小学校

ふるさとを愛する心の醸成について

校　長　土田　利康

梅の花が咲き、次は桜と期待が膨らむ季節です。６年生は希望を胸に間もなく新しい道へと踏み出します。その姿に在校生も良い刺激を受け、進級への気持ちを高めています。

今年度、御免町小学校では「郷土愛の醸成」を学校経営の柱に掲げ、取り組んできました。地域の人・もの・ことに対して、「課題設定」「情報収集」「整理・分析」「まとめ・表現」の繰り返しを大切にしながら教育活動を進めてきました。その結果、先般の学校評価でもお知らせしましたとおり、「地域（町小学区や新発田）のことに興味をもった」という問いに対して、88%の子どもたちが肯定的に捉えました。このことについては、大変満足しています。

しかし、郷土愛というものは、大人になる過程で周りの世界と比較しながらふるさとの良さに気付き、自覚するものであると考えています。拙速に成果を求めるあまり、郷土愛の押し売りになってはいけません。今、私たちは子どもたちに、郷土愛の「たね」を撒くことが大切なのです。

先日、年間をとおして「ふるさと新発田再発見」をテーマに総合学習を進めてきた、６年生の学習のまとめを目にしました。学校や地域の歴史や伝統、魅力などについて、見たり聞いたりしながら一生懸命探究した跡が伺えました。

あるグループは、商店街を調べていました。当たり前にある商店街の魅力は何なのかと調査を始めました。最初は呉服店や金物店、文具店などにある「もの」について調べ、量販店とは違う良い品質や、お客様の希望に応えるオーダーメイドなど、お店の特徴について考えていました。しかし、調査の過程で、お店の人から気さくに声を掛けられたり、お茶を出してもらったりするうちに、「もの」の奥にいる「人」の存在に気付き、その「人」こそ商店街の魅力ではないかと捉え直しました。そして、商店街の魅力は、「また会いたくなる人たち」であるとまとめていました。数値では表すことはできませんが、このような気付きは、すばらしい学習の成果です。当校の６年生には、主体性や課題発見力、解決力など未来を生きる力が育ち始めています。また、ふるさとの良さにも気付き始めています。今後、活動を間近で見てきた在校生も、互いの考えを出し合い、協力し合って学びを深めていくことでしょう。

今年度、学校で取り組んできた「郷土愛の醸成」の評価については、設定した評価基準以外の子どもの姿からも、御意見や御感想をいただきたいと思います。